

モデル事業名	1つの浜松・もう1人の担い手「みさくぼ大好き応援団」の仕組みづくり事業
活動団体名	NPO 法人魅惑的倶楽部、ここほれワンワン塾、NPO 法人地域づくりサポートネット
ホームページ	HP http://www.exotic-club.jp/ ブログ http://www.exotic-club.jp/
所属/担当者名	NPO 法人地域づくりサポートネット (担当者氏名 山内秀彦)
連絡先	電話 053-455-0220 info@shizuoka-t.net
活動地域	静岡県浜松市天竜区水窪町と浜松市中心部 (天竜川の上下流域)

● 活動地域の概要

ー浜松市天竜区水窪町は、平成 17 年浜松市との合併により人口 82 万人の政令指定都市の最北端のまちとなった。
 ー浜松市人口 822,716 人うち水窪町人口 2,893 人 (平成 22 年 1 月 1 日)、水窪町の人口推移 S30/100 H22/26.4、
 ー高齢化率 48.06%、15 歳未満 6.12% (平成 21 年 10 月 1 日) ※40 歳以下を境に人口が大きく減少。



【位置図】

【信州との県境地域・水源地の森】

【市民団体が管理する市有林】

● 活動地域の課題

ー水窪町合併後は若者の流出が進み高齢化が進行し、地域の担い手が不足し、将来に対する不安が大きくなっている。
 浜松市は合併・政令市移行により、水窪町の行政職員も大幅に削減され、地域住民の活動を支援する機会が減少。
 ー市民ボランティアによる市有林の管理コストをねん出してきた町の活性化イベントの委託事業の大幅に削減されることになり、森林の維持管理や地域間交流活動も維持が困難。過疎山間地の切り捨てと感じている住民もあり、公共的な事業を地域住民が担えるための“希望の光”が求められている。

● 活動の内容

<平成 20 年度>

- ①ワンワンの森(市有林)の管理と活用を通じた交流の仕組みづくり
- ②みさくぼ大好き応援団人材発掘・仕組み研究
- ③間伐材利用啓発「竜水護森木札」(チャリティ事業)の持続・展開策の試行



【みさくぼ大好き応援団】



【竜水護森木札の仕組み】



【ワンワンの森の活用の試行】

<平成 21 年度>

活動①：間伐材や特産物を利用した商品開発の研究

- ーホテル・レストラン関係者を招いた商品づくりのワークショップの開催
- 水窪・自然食を作る地域の人が出演するプロモーション DVD の作成
- ー“森の恵み商品”の試作品作成 (スイーツ 2 品を試作・PR、市内のホテルと協働で「自然食創作グルメ料理&特産品販売」を実施)
- ー試作品のテスト販売・PRの試行、販路開拓の研究 (ヒアリング)
- ー森林の維持活動のために、NPO が「天竜の森と水を守る基金」を造成した。



【自然食創作グルメ実施・8月の2週間】

活動②：応援団の仕組みを活かしたオリジナル環境学習プログラムの構築

- ーオリジナル環境体験・教育プログラム (エコツアー商品) の開発研究・試行
 - ーワンワンの森を核とする親子参加型の環境体験・教育講座の開催
- ※20 年度の間伐材利用促進の「竜水護森・木札」(絵馬) チャリティ事業は継続



【自然の中で中学生の思春期講座】

● 活動の成果

・平成20年度

—新聞への掲載、国土交通省のHPなど全国から問い合わせがあり、環境保全、企業の協力、神社の協力、市民の協力により環境保全の啓発・障害者福祉への貢献が浸透していった。（書籍にも事例紹介された）

—水窪の市民団体も自ら活動資金を稼ぎ出すための試行が始まった。（オリジナル商品づくり、環境学習への取り組み）

—木札（絵馬）のチャリティ募金を取扱う協力店が拡大した。

—市有林（ワンワンの森）を市民交流の森とすべく、手づくりのバーベキュー小屋をつくり、交流の場ができた。

・平成21年度

活動①：間伐材や特産物を利用した商品開発の研究

—天竜・自然食グルメの継続・発展（水窪⇒天竜区全体へ）

※天竜商工会では「天竜の自然食」をテーマにした創作料理開発、食のブランド化に向けた取り組み事例として「天竜・自然食グルメ」を参考に事業化の検討に入った。

—都市部の菓子店が水窪の資源（栃の実）を使った“スイーツ”を本格販売する方向で進んでおり、その収益金の一部を森を守る基金に寄付する流れができた。



【木札募金の取扱店】



【ワンワンの森に交流の場】



【ヒノキの名刺入れ】



【ホテルの創作グルメ企画】

活動②：応援団の仕組みを活かしたオリジナル環境学習プログラムの構築

—ワンワンの森を利用した「森林環境学習」の体験プログラムを活用し、交流する団体などロコミで体験プログラムを使った事業を実施していくことになった。

—浜松市は本年度より「てんはまエコミュージアムの案内人」養成を始めたが、そのプログラムとフィールドの1つに加えられる。



【森林環境学習のプログラム構築】



【自然の中で中学生の思春期講座】



【自動販売機の設置】

—応援団として飲料水メーカー（サントリー・東海ペプシ）が自動販売機の設置協力があれば、売上に対して森林を守る基金への寄付を拠出してもらえるようになり、設置協力事業所（3事業所、5箇所）も出てきた。

—水窪の地域イベント（ヤマメつかみどり大会、水窪商店街の七夕まつり）に大好き応援団として運営協力、賑わい創出に関わるようになり、森林管理だけでなく、地域の担い手のサポートを行うようになってきた。

● 今後の課題及び展望

◎課題

—持続的に地域の担い手及びその応援団として活動するためには、継続的な資金開拓が急務となった。

—水窪中学校の生徒を対象にした「環境学習・思春期講座」を通じて中山間地域の子供たちが地域の自然の中で森林作業などに関わりを持っていないことがわかり、地域の子供たちを参加することが必要であると感じた。

—都会の人に対し、山の商品を販売し、自らの活動費を稼ぎ出すためには、専門的な技術（デザイン・品質）、知識、販売チャネル、情報発信方法などトータルのノウハウが必要で、これらを市民団体が一気に習得・意識改革し、実績をあげることは難しいことがわかった。

—浜松市中心市街地の空き店舗活用「地産地消ショップ」での販売を企てたが、商品の輸送・コストなどの面で実現しなかったが、山村の物産を都市部に安価に輸送する仕組みが確立すれば販路が拡大する。

◎展望

—平成22年4月より浜松市中心市街地に「市民協働センター」が開設され、本グループがその指定管理者となる。そこを「常設拠点」に天竜川の上流・下流の地域連携を支援しながら、指定管理者の自主事業として木札絵馬による森林環境の啓発や障害者の仕事づくり、物産・木工品の委託販売、自販機の寄付など“基金”による活動資金を募ることを継続していく予定である。

—ホテルとタイアップして「自然食グルメ」の事業を継続するとともに、“水窪町”だけでなく天竜川上流域（中山間地域）をフィールドとするよう拡大発展していく。